

揺れる

維新政治

今年4月、大阪市の街

角から「赤バス」の姿が消えました。地域の隅々を走り、市民が日常生活の頼りにしていた低床式のコミュニティバスで

バス通院できぬ

「市民は非常にせいたくな住民サービスを受けている」と言う橋下徹市長の意向でした。代替交通サービスを実施する区もありますが、十分とはいえません。「2段の段差のため、1カ月で乗るのを諦

めました」。港区の藤原トシエさん(75)は同区の代替バスについて無念そうに語ります。膝に人工骨が入っていて、歩くには手押し車が欠かせません。港区が4月から運行する代替バス「青バス」には、乗降口に2段の階段があります。

赤バス消え 代替も危機



上「住民の足を守って」と交通局担当者に迫るバス利用者(中央)。下青バスに乗り込む人

て、乗りたくても乗れない人が他にもいます」と話します。総合病院へのバス通院もできなくなっ

利便性が後退

区は「コストの問題で低床のバスが実現できなかった」と言い訳しています。

赤バス廃止後、代替の交通サービスがあるのは15区です。▽週3回の運行(城東区)▽定員10人(東淀川区)▽利用者を制限(此花区など7区)と、どの区でも利便性が後退しています。これらも来年度以降、存続の危機にあります。各区が今年度だけの暫定

措置としていっているためなくなっています。橋下市長が狙う地下鉄・市バスの民営化・廃止と一体の対応です。赤バスの発想をもった公営バスの復活と地下鉄・バスの民営化撤回を訴える「赤バスの存続を求め市民連絡会」は、署名の宣伝、行政への要請行動を展開。「買い物や病院に行けなくなる」とバス利用者の切実な声が寄せられています。前出の藤原さんはいいです。「赤バスがあったときは出かけるのが楽しかった。友だちと『おはよう』と声をかけあったりしてね。またみんなが乗れるバスを走らせてほ

3度の継続審議

12月の市議会でも民営化は3度目の継続審議になりました。橋下市長が「くるんでいた来年4月からの市バス民営化はでき

(前田美咲)